

## 凡 例

- (一) 都統の職は將軍と品級が同じで、清末期にはわずかに烏魯木 [ウルムチ]・察哈爾 [チャハル]・熱河の三地にだけ設置され、単独で作表するには不便である。ここでは將軍と都統を併せて一つにして「將軍都統年表」とした。
- (二) 「副都統年表」は二つに分け、東三省地区は表(1)として作り、その他、全国各地は表(2)とした。西安・荊州など各処それぞれに左翼・右翼の兩副都統が設けられ、広州にもまた満洲・漢軍の兩副都統が設置されているので、表もこれに従って区分した。
- (三) 「盛京五部侍郎年表」には兼管奉天府尹事・奉天府尹・府丞(府丞は各表職官中で唯一の漢缺[漢人に専属する官職]である)などの職官を附した。このように清代の盛京地方は將軍・副都統を除く他の主要官員はすべてこの中に含め、参考となるよう便宜を供した。
- (四) 各職官は長年にわたり撤廃や設置など変動が多く、表の中に注を付した他、別に「各表の職官変動状況に関する簡表」を作成し、参考に備えた。
- (五) 各表の職官変動で考証するに重要なものは、みな1ポイント小さな文字で「×××某月某職に調す」と標記した。
- (六) 各表職官の名称は基本的に正式名称を用い、「参贊辦事大臣年表」および「盛京五部侍郎年表」の中の本職の変動に関しては簡称を用いた。参贊・辦事大臣など、本表内での変動は「喀什噶爾 [カシュガル] 大臣」「哈密 [ハミ] 大臣」などと省略し、盛京五部侍郎は「戸・礼・兵・刑・工」で代え、北京各部侍郎は「礼左」「兵右」などで代えた。
- (七) 清朝の職官の昇進・転任の変動には多くの専門用語があり、本書では簡明にするため、意味の近いものは合併し、主として以下の数種を選んだ。

「授」(昇進・転任)	「命」(任命)	「調」(他の職への転任)
「革」(罷免)	「病解」(病気による解職)	「解」(職務免除)
「卒」(死亡)	「召」(北京へ移動)	「降」(降格転任)
「休致」[引退]	「開缺」[欠員]	「署」[代理]
「護理」[上級官の職を下級官に代理させる]		「丁憂」[父母の喪に服す]
「請假」[休暇の申請] など。		

- (八) 各表の職官の転任期日は月だけを注記し、陰暦を基準とした。これは稿本の体裁の通りであり、当時の実用的暦法なので、改変していない。

- (九) 表中の各種の臨時的な「署理」「護理」などの人員は、実際に授与された本・缺職官とは別であるため、一律に別の字体で括弧を用いて標記し、正式な任命者との違いを示した。また別に、新しい職に転任しながら、ある種の理由から赴任せず、それが調査可能なものは、みなその新任職官の項目の下に「未到任」と注記した。
- (十) 人名には二種類の書き方がある。改名した者は、もし調べがいたら、1ポイント小さな文字で括弧を用いて注記した。例えば、道光七年杭州將軍「富祥」が、また「福祥」と書く時、その名の後ろに（一作福祥）と注記した。また、例えば、道光元年の荊州將軍恒穎は原名「恒寧」であり、（原名恒寧）と注記し、参考に備えた。
- (十一) 表中の職官変動の時期について、幾つかの期日は調査できず、また幾つかの臨時署理あるいは護理の人員は往々にして記載が見つからず、一時的に空欄にして補足を期したい。

翻訳（帆刈 浩之）